

一般社団法人日本コンクリート診断士会
第4回定時社員総会議事録

1. 日時：平成25年5月28日（火） 14:10～15:45
2. 場所：公益社団法人 日本コンクリート工学会 11階会議室
3. 資料：
 - (1) 一般社団法人日本コンクリート診断士会第4回定時社員総会
 - (2) 第1号議案：平成24年度事業および収支報告
 - (3) 第2号議案：平成25年度事業および収支計画
 - (4) 第3号議案：行動規範について
 - (5) 報告-1：各地区コンクリート診断士会活動報告と計画
 - (6) 報告-2：会員数報告
 - (7) 報告-3：24年度サステナビリティ委員会・サステナビリティフォーラム活動報告
 - (8) 報告-4：その他
 - (9) 資料(1) JCIのコンクリート診断士倫理規定
 - (10) 資料(2) 理事会名簿

4. 出席者数

学術・正会員出席者数：当日出席47名(51名)+委任状出席 547名

計594名(3月31日現在議決権数:921名)

賛助会員出席者数：7名

法人会員出席者数：6名(5社)(法人枠で登録の会員を除く)

メディア関係：1名(セメント新聞)

()内は最終出席者数である。

5. 議事

- 5.1 開会宣言：開会を司会の小野理事が行い、総会成立について定数の確認が行われ出席47名、委任状出席547名の594名で、総会成立要件461名（議決権数921名の半数）を満たしているとの報告がなされた。
- 5.2 議長の選出：定款13条により議長に林会長が選出され、次の挨拶があった。
 - ・JCDの長期ビジョンはまだ作成されていない。
 - ・本会の活動のレベルはまだ低いといわざるを得ない状態で、コンクリート診断士が世間から十分に認識されていない面がある。
 - ・会の活動を会員相互の協力により支えていく必要があり、いろいろと意見を出してほしい。出された意見をもとに理事会他で今後の方針を決めていきたい。

5.3 議案

5.3.1 第1号議案について

- (1) 資料(2)の第1号議案の事業報告(案)について毎田理事(事務局長)から説明した。
- (2) 資料(2)の第1号議案の収支報告(案)について井田理事(会計担当)から説明した。
- (3) 上原監事より監査報告がされた。
- (4) 上記の説明に対して異議はなく、第1号議案は原案通り承認された。

5.3.2 第2号議案について

- (1) 資料(3)の第2号議案について各担当理事から説明した。

- ・企画部会：石川理事から25年度の計画について、①行動規範の制定、およびこれに伴い会員証を再発行する、②地区の海藤氏の交流促進に向けてJCDと各地区の会との役割分担の明確化に関する意見集約などについて検討するとの説明をした。
- ・技術部会：奥田理事から25年度の計画について、①全国業務体験発表会の開催、②関連委員会への参画（JCIサステナビリティフォーラム、インフラドック委員会など）への参加などについて説明した。
- ・広報部会：奈良理事から25年度の計画について、①ホームページのパスワードの変更、②関連官公庁、特に国交省などへのPRを積極的な推進、③関連催し物への後援、④会員への直接情報発信などについて検討・実施していきたいと説明した。
- ・会員担当：名倉理事から25年度の計画について、①宮崎、熊本、香川など地区の設立などの動きがあり、本会としても空白地区の会設立支援に関してさらに支援していきたい、②行動規範の制定に伴い特別に会員証の発行を行うなどについて説明した。
- ・事務局：毎田理事から25年度の計画について、事務局業務の効率化、簡素化をさらに行うなどと説明した。

(2) 資料(3)の第2号議案-25年度収支計画(案)について竹内理事から説明した。

(3) 上記の説明に対して異議はなく、第2号議案は原案通り承認された。

5.3.3 第3号議案について

(1) 資料(4)の第3号議案について田沢理事から資料(9)と比較しながら説明した。

(2) 上記の説明に対して異議はなく、第3号議案は原案通り承認された。

5.4 報告

5.4.1 報告-1について

(1) 資料(5)の報告-1：各地区コンクリート診断士会活動報告と計画について各地区の会会長から報告を行った。各地区の会からの報告の主なトピックスは以下とおりである。

- ・福井（石川会長）：研修会も通算50回を数え、県他との強力な連携が特徴である。コンクリート診断士受験セミナー（福井県主催、後援）への講師派遣も行ない診断士増に努めている。
- ・鳥取（有本会長）：①島根県との合同研修会の開催を行い、②コンクリートひび割れ制御検討委員会へ委員の派遣、③県からのコンクリート構造物劣化等調査のアドバイザーなども行っている。また、④県の測量業務特記仕様書に「コンクリート診断士」に関する記載を追加した。
- ・島根（井田会長）：①土木学会全国大会で毎年、業務の成果の発表、②今年度も出雲大社庁舎耐久診断業務がある。また、鳥取県と連携し研修会を開催している。
- ・東京（小野会長）：24年度は、①静岡コンクリート診断士会と合同で見学会の実施、②受験対策講座（使用するテキストを出版）、③東工大との共同研究は24年度で終了した、などと報告した。25年度は、技術セミナー、業務発表会、見学会（筑波の土研センター他）の開催、受験講座（2回）の開催を実施予定である。
- ・石川（奥田会長）：24年度は、①宮島教授（金沢大学）による「最大クラスの津波想定と石川県の地震津波対策」について特別講演、②見学会では鋼橋の劣化状況について、③技術セミナーは塩害について実施した。25年度の見学会は、新潟の電化セメント工場を予定している。
- ・大分（甲斐事務局長）：24年度は、①「JCI+セメント協会+当会」の共催で技術講習会他、②受験対策講座、③現場見学会などを開催した。25年度は、林会長の特別講演を予定している。
- ・青森（奈良会長）：①JCI東北支部と共同で「コンクリート診断士の技術研鑽のための勉強会」の開催、

②青い森の橋ネットワークへの参画などを実施した。

- ・静岡（名倉会長）：①県の講習会への講師派遣，②コンクリート診断士受験講座の開催，③見学会（2回）の実施などを行った。25年度は，TCDと共同で見学会を実施予定である。
- ・高知（原田会長）：「インフラの老朽化」をキーワードにした研修会ができればよいと考えている。
- ・京滋（長谷川会長）：見学会を通算7回実施した。構造物の管理者から診断依頼を受けたが，逆にその構造物の見学会を提案し実施した。24年度に診断依頼を受けたが，診断について求められた要求が高すぎるため断った。
- ・新潟（伊藤副会長）：当会も発足後，5年目である。この間，行政の考え方も変化してきており，これに対応できる体制を作ることを目指したい。発注者側からの技術教育に関する依頼があり対応した。新潟県は塩害とASR劣化の現場が多数あり，見学会選定には困らない。
- ・北海道（上原会長）：24年度は，①診断士普及講習会（受験対策），②技術研修会（講演＋実学＋診断事例）などを実施した。入会促進のために診断士資格更新時の会場でPRした。25年度は，北海道の広さから来る問題を少しでも解消するために札幌からの遠隔地での研修会を計画している。
- ・長野（日堂会長）：①補修・補償協会での講演などを実施した。活動状況が低調であった。また，他県との連携が不十分であった。25年度は，これらをもとに改善すると共に，体験発表会を計画している。
- ・東海（竹内会長）：①名大施設を利用した研修，②当会＋MEの会の合同研修会（メンテナンスエキスパート），③JIAでの講演などを実施した。
- ・広島：今回参加していないので，PPを使用した活動状況の紹介がなされた。

(2) 報告を承認した。

5.4.2 報告-2について

(1) 資料(6)の報告-2: 会員数報告について3月31日現在の会員数921名（学術：16名，正会員：905名（うち，9名は直接入会，24名は法人からの登録），賛助会員64名（うち，12名は法人からの登録）），法人会員は63社（ランクA：12社，ランクB：9社，ランクC：42社）と事務局から報告を行い，報告を承認した。

5.4.3 報告-3について

(1) 資料(7)の報告-3: サステナビリティ委員会サステナビリティフォーラム報告について木村（TCD）から24年度の活動概要など報告を行った。今年度は，フォーラムのホームページの開設を目指して活動している旨を報告し，報告を承認した。

5.4.4 その他

(1) 理事会報告

総会の前に開催した理事会の以下の経過報告を小野副会長から行った。

- ・総会議案の説明
- ・JCDの今後の進め方：本会として今後の最大の検討課題である。小野副会長の個人的な見解として，個人会員のメリットは，①診断士が社会的に認知される，②適切な報酬を得られるようになること，だと考えている。
- ・事務局のあり方と会費の値上げ：25年度に検討する。
- ・理事会を定例的に開催することの確認

(2) JCDの役員紹介

- ・資料(10)にもとづき役員が紹介され，一言抱負を述べた。

5.5 閉会の挨拶

林会長より閉会の挨拶があった。

6. 特別講演

(1) 特別講演が、下記の通り行われた。

- ・ 講師：佐藤嘉昭副会長
- ・ 演題「コンクリートの長期耐久性－改質フライアッシュの効果－」
- ・ 講演時間：15:55～16:50

講師の紹介（紹介者：大分コンクリート診断士会甲斐副会長）の後に講演が開始された。

講演では、フライアッシュの有効利用とコンクリートの長期耐久性向上について①フライアッシュの現状、②規格、③フライアッシュの有効利用に関する課題、④改質フライアッシュの開発、⑤現状についての説明があった。フライアッシュの改質に当たっての課題は、未燃カーボンの除去で、どのようなシステムで行うのが適しているかについていくつかの製造設備を改良しながら製作し実施した。

また、今回の開発を通じて、「必要なものは確保しておくことが重要である。」ことがよく分かった。例えば、「土木」を残すなど。

(2) 講演に対して次の質疑があった。

Q1:中性化とポゾラン反応との関係？フライアッシュを混入することによってコンクリートが緻密化する影響がある。

→まだよく分かっていない。塩分浸透、酸素透過率、透水性などを総合的に試験して判断する必要がある。

フライアッシュ混入コンクリートが中性化しても問題ないといえるようになればよいと考えている。

Q2:フライアッシュをどの程度まで混入しても善いのか？

→50～100kg/m³と考えている。セメントの規準は30%で、実際は20%位が適当な量ではないか。

改質フライアッシュのコストは、15,000～20,000円/tで、コンクリートとしては500円/m³のコストアップになる。なお、大分市内の生コン単価は、5,000円/m³であったが、10,500円/m³となるべく協組が決議した。耐久性が、例えば30年→50年に伸びることを考慮すれば、500円/m³のコストアップは高いものではない。

7. 閉会宣言があり、16:55に閉会した。

文責：木村（事務局）

総会議事録捺印

- | | | |
|---------------|--------|---|
| 1. 理事・会長 | 林 静雄 | 印 |
| 2. 理事・副会長 | 小野 定 | 印 |
| 3. 理事・副会長 | 佐藤 嘉昭 | 印 |
| 4. 理事・企画部会長 | 田澤 雄二郎 | 印 |
| 5. 理事・企画部会副会長 | 石川 裕夏 | 印 |
| 6. 理事・技術部会長 | 奥田 由法 | 印 |
| 7. 理事・技術部会副会長 | 有本 尚巳 | 印 |
| 8. 理事・広報部会会長 | 奈良 裕 | 印 |
| 9. 理事・広報部会副会長 | 長谷川 光弘 | 印 |
| 10. 理事・会員担当 | 名倉 昭三 | 印 |
| 11. 理事・会計担当 | 井田 豊 | 印 |
| 12. 理事・会員担当 | 日堂 俊之 | 印 |
| 13. 理事・会員担当 | 原田 隆敏 | 印 |
| 14. 理事・会計担当 | 竹内 祥一 | 印 |
| 15. 理事・事務局長 | 毎田 敏郎 | 印 |
| 16. 監事 | 上原 泰正 | 印 |
| 17. 監事 | 伊藤 司郎 | 印 |